

令和8年1月22日

令和8年

第1回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和8年1月22日（木曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史	教育長
出 張 吉 訓 委 員	教育長職務代理者
高 橋 幸 子 委 員	
深 澤 佳 己 委 員	
北 内 英 章 委 員	
藤 井 大 吾 委 員	

2 出席職員（12名）

教育総務部長	今 井 健太郎
参事（教育施設担当）	河原田 光
教育総務課長	鈴 木 孝 司
教育施設担当課長	小野澤 行 平
副参事（教育地域力担当）	齋 藤 恵 介
副参事（教育施設調整担当）	小 池 武 道
学務課長	八 木 弘 樹
指導課長 （幼児教育センター所長 兼務）	木 下 健太郎
指導企画担当課長	志 賀 克 哉
学校支援担当課長	長 岡 誠
教育センター所長	早 田 由香史
大田図書館長	杉 村 由 美

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項

(午後 2 時00分開会)

○教育長

ただいまから、令和 8 年第 1 回大田区教育委員会定例会を開会いたします。

本日は、傍聴希望者がおります。

委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は、定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に出張委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

私から 3 点ほど報告をさせていただきます。

1 点目は、1 月 17 日のものづくり教育・学習フォーラムです。後ほど、指導課長からもこの報告はあるかと思いますが、今年は、大森スポーツセンターにて行いました。体験コーナー、ものづくり、それぞれ豊富な実践が報告されました。

このものづくり教育・学習フォーラムは、約 4 半世紀前から大田のものづくり教育について、様々な企業や、関係団体のご協力を得ながら、少しずつ発展していきました。その中で発表・展示・体験、それぞれ充実したものづくりに関わる活動ができ、また、報告ができていたと思えました。

私は、舞台発表を少し見せていただきましたが、石川台中学校の部が、自分たちの研究・制作を発表していました。内容は、水車作りです。水車を回すと、その動力は、自転車を回転させて、水車を回して水を上げて、水をまくというような取組みを行っていました。

大田ならではのと思ったのは、その科学クラブは、東京科学大学の大学院生たちが水車の

仕組みや、水を上げる発電を手伝っておりました。そのおかげで良い実践ができておりました。中学生の力だけでは、少し難しかったと思いますが、東京科学大の学生の協力、これは、清水窪小学校が東京科学大学と連携しておりますので、そこで育ったこどもたちが中学へ行ってものづくりに取り組んでいる、良いつながりだと思いました。

また、作品展示につきましても、こどもたちのデザイン力が豊かで非常に多彩なものづくりがありました。今回のものづくりの文化が、様々なご協力をいただきながら、体験できていると思いました。

あと、体験コーナーもなかなか授業・学校教育の中だけではできないようなものがたくさんありまして、こどもたち、また保護者の方と一緒にものづくりを楽しんでいました。

おたの未来づくりを行っていますが、願いとしては、こどもたちが科学やものづくりに興味を持つような取組を、大田区で学ぶこどもたち全員に体験させたいと思いました。

いずれにしても、こどもたちの科学とか、ものづくり、デザインパートに対する可能性の大きさを非常に感じたところでございます。

二つ目の報告は、1月18日、羽田地区の青少年対策地区委員会の親子のイベントがありました。多摩川の大師橋緑地でこどもたちが手作りのたこをたくさん作って、それを河川敷で揚げるという取組でした。ちょうど晴天で富士山もよく見えて、たこを揚げる風もちょうど良く、多摩川ならではの風景が見られたと思います。羽田・萩中の地域のこどもたちが約6、70名、元気いっぱいたこを揚げて、活動をしていました。

保護者の方、または地域の方々も本当にたくさん参加し、こどもたちの人数よりも多いのではと思うほど一生懸命取り組んでいただきました。大田区では、なかなかたこを揚げられる場所も限られているのではないかと思います。多摩川の河原で富士山を仰ぎながらたこを揚げるとするのは、羽田・萩中のこどもたちならではの経験で、記憶に残るのではないかと思います。

このように大田区の中で様々なこどもを育成する地域の取組がありますが、こどもたちが楽しめるような行事がたくさんあって、地域・学校・家庭がしっかりと力を合わせてこどもを育てる、そうした取組を今後も引き続き継続していく、または、盛んに行っていくことで、子育て・教育で選ばれる、そうした大田区になっていくのではと思いました。

いずれにしても、そういった活動をどうこれから継続して盛り上げていくのかということ、しっかり教育委員会でも支援していきたいと思いました。

最後に、3点目は、昨日、安方中学校の自習室を見学させていただきました。新築された校舎で学校生活が始まっていますが、その安方中学では、新たに自習室という部屋を作って学習しており、その様子を見てきました。

この自習室は、図書館にあるつい立てのようなものがあり、一人で集中できるような部屋となっていました。この自習室のドアが開いて、その隣集会室につながっていて、そこも使っていました。全体で30人ほどでした。こどもたちが放課後の時間、部活動の間の時間など、そうした時間を使って真剣に勉強に取り組んでいました。

これまでは、こういう自習を目的とした部屋というのは、設置はなかったかと思いますが、新たな試みとして設置された自習室ですが、本当に思い思いの勉強に集中して、取り組んでいる様子は、大変良かったと思います。校長先生もそういう姿が見られるようになり、喜んでいました。

家の中では、なかなか落ち着いて学習に集中できない、または、しにくいような場合もあるかと思います。そういう中でこうした自習室があって、集中して学べる環境をつくることも必要なことではないかと思いました。

自習室には、PTAの会長さんがボランティアで来ていただいて、見ている。または、日によって教科で質問ができるように人的な配置もしておりました。区内の図書館に行くのと自習している中高生がたくさんおりますが、学校にも、こうした場があることは有効だと感じたところです。

さらに、落ち着いて集中できる学習環境を整備し、これを充実することで、学習に対する主体性を養っていきたいと感じたところでございます。

私からは3点、以上の報告です。

ほかにご意見・ご質問、または報告がありましたら、お願いします。

○高橋委員

1月16日に羽田中学校で作品展をやっておりましたので、見てまいりました。作品には、感想や工夫した所が記入されていて、併せて鑑賞できました。上級学校訪問、いわゆる高校ですが、いろいろな高校にそれぞれグループごとに行って、そのレポート、また、1年生の野辺山、2年生の社会科見学の事前学習・事後学習のレポートが掲示されてありました。

3年生は、今回、初めて函館の修学旅行に行ったのですが、事後学習のレポートは、とても中学生の考え方が分かるレポートになっておりました。修学旅行は、農業体験活動の様子が展示されており、楽しい思い出として記憶されたようでした。英語スピーチ活動のビデオ紹介があり、グループごとの発表と英語部の空港でのインタビュー活動など、OGC校ならではの活動だと思いました。

次に、1月17日、私もものづくり教育・学習フォーラムを大森スポーツセンターで見まいりました。体験コーナー、作品展示など、スペースが広く使われていました。販売ブースは、おたの未来づくりが教科として始まったので、4校の出店がありました。競技会舞台発表は地下の会場で、各校ともすばらしい発表でした。講評の方からも、とてもお褒めをいただきました。会場の都合により、ソーイングの参加者が少なく、残念に思いました。

3点目に、1月20日、千鳥小学校の指導訪問に同行しました。3、4校時の授業を参観しました。算数室の掲示が分かりやすく掲示されていて、学習の一助になると感じました。道徳の授業では、各回のまとめが掲示されており、取組に感心しました。音楽の授業では、児童たちが拳でリズムを取りながら、カネの音を見つける学習でした。全員でできて楽しそうでした。

○教育長

ほかにごございますでしょうか。

○深澤委員

私も4月17日に、大田区のスポーツセンターで行われた、ものづくり教育・学習フォー

ーラムの午前の部に参加してまいりました。おおたの未来づくりが、令和7年度から区内小学校全校で実施されておりますので、私は、未来づくりの観点から報告をさせていただきます。

フォーラムでは、未来づくりの発表も含めて、午前の部では、9校の舞台発表が行われました。未来づくりの良さは、自分たちでコンセプトを決めて、それを達成するための手段を仲間と試行錯誤するということにあると思いますが、それにとどまらず、その成果をみんなの前で発表することも、こどもたちにとって良い経験になると思われました。

発表後に、大田工業連合会の方から、各校の講評をいただきましたが、こどもたちのアイデアや感性のすばらしさを随所で指摘いただきましたので、そのことが、こどもたちへの励みになるとともに、達成感をより高めることになったと思えます。

今年の舞台発表では、小学生のICTを使ったプレゼン力が、非常に高まっていることを感じました。年を追うごとにフォーラムの充実度が増していることを感じますし、未来づくりも、ご指導されている先生方の経験値の向上と地域の方々のご協力のおかげで、こどもたちにとって有用で創造的な学習になってきていると感じました。

○教育長

ありがとうございました。

ほかにありますか。

○北内委員

私も1月17日、土曜日にもものづくり教育・学習フォーラムに参加させていただきました。今年は、大森スポーツセンターで開催され、広々した空間でこどもたちはのびのび楽しんでいました。

最初に、作品展示に関しては、どの学校の作品もすばらしく、例えば、木製の本棚だったり、ティッシュボックスであったり、実用的でかつとても美しい作品が並べられていました。

次に、舞台発表では、いくつか例を挙げますと、入新井第二小学校では、ドン・キホーテとコラボレーションして、避難グッズを販売する取り組みについて発表しました。たいへん役に立つことを実践されていると思われました。

また、教育長からもお話しありましたが、石川台中学校の自転車で発電して水車を回すという取り組みでは、水車が回ったときの生徒たちの達成感が素晴らしく、更に、地域の大学生と大学院生が協力して一緒に活動していました。たいへん良い取り組みだと思われました。

六郷小学校の六5米、漢字の「六」に「郷」を「5」と書き換えて「米」と書きますが、では、学校の給食の時にご飯が残るという課題がありました。そこで、児童たちは、ご飯を残さないように各教室で啓蒙活動をしました。

この啓蒙活動を学校だけでなく地域に展開し、ツナみそおにぎりやツナしょうゆおにぎりにして、雑色の商店街で販売すると、すぐに完売したそうです。学校での課題から地域に貢献していることがよく分かりました。

舞台発表を通して、着実の「おおたの未来づくり」が進んでいることが、よく分かりました。

最後に科学研究発表についてです。

どの研究発表も素晴らしく、きちんと論理だてて、最初に研究の動機、次に想定する結論、そして研究方法、最後に研究結果と考察が書かれ、研究論文としてたいへんレベルの高い発表ばかりでした。

例を挙げますと、矢口小学校の1分単位の日時計を作る研究は、1分単位でじっと見て刻んでいかないといけないので、根気のいる難しい取り組みですが、丁寧に研究されていました。

また、馬込第二小学校の児童は、身近な課題で、なぜリンゴとゴボウの色が変わるのかという素朴な疑問から実験されていました。何もせずそのまま外気に放っておいた場合、水につけた場合、塩水をかけた場合、レモン汁をかけた場合、最後、なぜか蜂蜜なんです、蜂蜜をかけた場合で比較実験しました。結果の考察では、私は、やはり蜂蜜をかけたリンゴが一番好きだとまとめていたのが、たいへんほほ笑ましかったです。

入新井第一小学校の児童の研究も、たいへんすばらしい取り組みでした。汚れを洗濯して、それを人間の目とAIカメラで判断させて、どれだけ結果が異なるかを比較実験しました。実験には、身近なものを使っていました。お父さんのシャツを小さく切って、それを汚して洗濯し、人間の目ではどれだけきれいになったかをランク付けし、AIカメラでは画像を判断させて、それぞれを比べることで結果をまとめました。更に、グラフにすることで定量的に評価しました。本格的な研究でした。

科学研究発表を通して、着実の「おおたの未来づくり」が進んでいることが、よく分かりました。引き続き、「おおたの未来づくり」、コミュニティスクールの推進をお願いいたします。

○教育長

ありがとうございました。

ほかにありますか。

○藤井委員

1月21日に大田区三医師会の学校保健委員会を行いました。学校の教職員健診が、去年から都合によって牧田病院検診センターに変わりました。内容的にも見直しをして、拡充するというか、より効率の良い方法になりました。

先生方の健康というのは、とても重要なことですので、事後措置と言いまして、その健診結果を基に指導とか、治療しなければならない方は、治療をするなど、そうしたことをやらなければならないのですが、今は一般の企業でも非常に事後措置が厳しくなっています。なにか指摘された場合に病院に行かなかった場合、会社から何度も催促される等があります。学校の先生方や職員の方々に関しても、事後措置をしっかり受けていただき健康を守っていくということを考えるべきかというご意見がありました。

それから、ヒトパピローマウイルスに対するワクチン、女性に対して小学生から打っていたわけですが、一時、副反応の問題が出て、頓挫した時期がありますが、今は、その副反応に関しては、ワクチン接種していない同世代の子女と変わらない発生率であるということから、また、海外での報告を含めて、現在は接種勧奨という形に、国のほうではなっ

ております。

それで、男子にも接種勧奨というようになっておまして、ただ、それがあまり周知徹底されていませんので、男子も受けられるということを、皆さんに啓蒙していただく必要があるという話が出ております。

それから、不登校の問題に関係しますけれども、やはりこどもの心の問題というのを、今、大田区では、非常に先進的な受皿作りをしていて、非常にそれは誇れることだと思います。学校に行けないこどもが、みらい学園やいろいろな施設などしっかり行き場所を確保すること。これは、一番大事なことかと思いますが、不登校の7割ぐらいのこどもが、メンタルの不調を抱えております。

それに関して、実は、こどもの心を診られる医者というものが、非常に少ないことがあります。こどもの心相談員というものがあったり、こどもの心の専門医という資格があたりいろいろな制度がありますが、全部に入っている先生方ばかりではないですが、大田区内にも十数人の先生がいらっしゃいます。

しかしながら、学校の先生方や、スクールカウンセラーの方々、親御さんも、もし、医療が必要だと思っても、どこに行ってもいいのかわからないということもあり、あるいは医療を受けるべきかどうか分からないということで、医師会の先生方に協力をいただいて、できれば、そういう橋渡しの情報提供をしたほうが良いのではないかと話をしました。

それで、少ない先生方を有効利用するためには、学校で不登校について非常に関与する機会の多い先生方を集めて講演会で詳しい話をさせていただいて、メンタル不調の見分け方とか、そういったものを勉強していただくことも無用な受診を防ぐことにもなり、必要な受診を促すことにもなるので、必要ではないか。そうしたことも話し合いをしてまいりました。

今後、そうしたことも含めて、不登校対策に対して大田区は、両輪にわたって努力しているという形に持っていければ良いのかなということです。

○教育長

ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

○出張委員

今回、私もフォーラムに参加させていただきました。私の場合は、初めてでしたが、成果発表や作品展示、それから体験活動を拝見し、大田のこどもたちはものづくりを非常に楽しみながら、創造性や、主体的に学ぶ姿勢をしっかりと身に付けてきていると実感しました。本当にありがとうございました。

具体的には、小学校の科学展示、これは、すばらしかったと思います。先ほどもお話がありましたが、本当に身近な疑問を基に、「なぜそうなるのか」仮説を立てて、さらに文献調査を行い、それから実験をして、考えを深める姿、それが資料の中から見え、探究的な学びが、学校の中で大切にされていることを感じました。

展示の一つに家族の職場を訪れる、医療現場でしたが、これはとても大事なことだと考

えます。今、非常に親が仕事で何をやっているかが見えなくなっています。親の仕事場の中に入って学ぶことで、働く人などの思いにも触れることができます。最後のまとめに「学んだことを未来に生かしていきたい」と書いており、体験を通した学びの深まりが感じられ、非常に印象的でした。

それから、区独自教科の「おおたの未来づくり」です。これは、展示がされていましたが、発表も行われていました。先ほどもお話がありましたが、地域の課題に挑戦する、実践する中で、こどもたちの思いだけでなく、地域の大人と一緒に考えながら、どう大田を良くしていったら良いかを考えているところが、すばらしいと思いました。

サミットと連携して、食品ロスを減らすためのエコバッグやポスターを作成するなど、すばらしい取り組みです。エコバッグは、私も使ってみたいと思いました。「一度に買い過ぎじゃないですか」とか、「本当に食べられるの」等のロゴが入っていました。なるほどと思いました。やはり子どもたちの感性はすばらしいと感じたところです。それから、安方商店街の大人と一緒に商店街をどう盛り上げていくかについての取り組みもありました。

報告会では、入新井第二小学校が、ドン・キホーテと協働した取組の発表をしていました。防災用品の開発や価格設定なども地域調査をしながら、どれぐらいにしたらいいのかを考え、2,990 円の価格設定をし、これから販売していく取組です。こどもたちが、どれぐらい売れるかとワクワクしながら、準備をしているのを見て、生きた教育をされていると感じました。実社会につながる学びの広がりも感じました。

このように地域の企業や、専門家の協力を得ながら、こどもたちが社会や人々のために価値を生み出し、届ける、そうした学びが進んでいることに大きな意義を感じました。また今後、実社会の課題解決につながる学びが、さらに一層進められると良いと思いました。

これらの取組は、ひとえに地域の皆様、そして、学校の先生一人一人が、本当に頑張っているからだ実感した半日でした。本当にありがとうございました。

○教育長

ありがとうございました。

ほかに、ご意見はよろしいでしょうか。

それでは、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第2は、部課長の報告事項でございます。

○教育長

では、部課長の報告をお願いいたします。

○指導課長

先ほど、教育長をはじめ、委員の皆様からもお話をいただきましたが、第24回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告をさせていただきます。

平成 14 年度から開催し、今年で 24 回目となるものづくり教育・学習フォーラムを令和 8 年 1 月 17 日、土曜日に大森スポーツセンターで開催いたしました。本フォーラムは、大田区のこどもたちにもものをつくる感性、主体的な態度、工夫・創造する能力の育成等を目的に、資料のとおり、作品展示、舞台発表、ものづくり協議会、ものづくり体験、おおたの未来づくり販売ブースの五つの取組を行うイベントで、様々な団体企業等から共催・ご協力をいただいております。

開催にあたっては、準備会委員長、新宿小学校、丸山綾校長先生を中心として、委員の校長先生や先生方に運営の準備を進めていただきました。

また、小学校長会、中学校長会、大田区教育研究会、小学校・中学校の P T A にも運営のご協力をいただきました。

今年度、新たに舞台発表において、東京実業高等学校にご協力をいただくことができました。

また、本フォーラムの実施内容におけるものづくり教育、学習の舞台発表及び作品・体験学習展示発表の小学校の部については、教科「おおたの未来づくり」等の学習発表に変更いたしました。

おおたの未来づくりの学習で作成したオリジナルアイテム等を販売や紹介をするコーナーも設置し、大森第五小学校、入新井第一小学校、入新井第二小学校、道塚小学校が、実際に来場者の方々に向けて販売等を行いました。

さらに、雪谷小学校の児童がデザインしたオリジナルトートバッグを、舞台発表及びものづくり協議会に参加する児童・生徒の参加賞として、配布いたしました。

体験コーナーについては、昨年度から運営を業者に委託し、延べ 628 名のこどもたちが、ものづくり体験をすることができました。

ものづくり協議会では、中学校の代表生徒が、当日の本番に向けてアイデアを練り、練習を積み重ねてきた成果を十分に発揮し、今年度も、時間内に全生徒がすてきな作品を完成させることができました。

加えて、東京蒲田ロータリークラブのご厚意で、副賞のご支援をいただき、木工部門の最優秀賞者には 3 D プリンター、ソーイング部門の最優秀賞者にはミシンを贈呈しました。

会場変更に伴い、体験ブースの団体の減少、舞台発表者の人数制限などを設ける等で、来場者数は、昨年度より微減となりましたが、6,187 名となり、本フォーラムは、ものづくりのまち大田の教育における一大イベントとなっております。

参加者のアンケートでは、どの発表・展示等もすばらしく、目がくぎづけになってしまいました。企業と一緒に学習に取り組んでいる学校が多かったのにびっくりしました。地域の産業の体験スペースがとても良かったなどの肯定的な感想があり、参加者にとって充実した内容にすることができたと考えております。

今後は、児童・生徒が来場者に、教科「おおたの未来づくり」で学んだことを直接発表したり、体験させたりするブースを設置するなど、さらにブラッシュアップし、参加したこどもたちが将来、大田区のものづくりに関わったり、支えたりする人材に成長していくことを目指してまいります。

私からの報告は、以上となります。

○教育長

ただいまの報告について、何かご意見は。

では、私から。舞台発表をした子には、トートバッグとか、そうした物があって、展示発表した子には、何か記念品などはあるのでしょうか。

○指導課長

展示発表した子に対しては、ございません。

○教育長

連合行事等では、賞状が出たりしますが、せっかく良い研究であるから、はねびよんのシール等を渡してあげても良いのかなと思います。

○指導課長

はい。今後、検討してまいりたいと思います。

○教育長

ほかに。

よろしいですか。

○高橋委員

この競技会のほうの最優秀者というのは、どんな方がわかりますか。学校でもありますか。

○指導課長

今、そのデータを持ち合わせておりませんので、後ほどご報告させていただきます。

○高橋委員

お願いします。

○教育長

ほかに、ございますでしょうか。

よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、本日の日程は以上となります。

これをもちまして、令和8年第1回教育委員会定例会を閉会といたします。

ありがとうございました。

令和8年 第1回 教育委員会 定例会 1月22日(木) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（教育施設調整担当）

学務課長

指導課長

第24回ものづくり教育・学習フォーラムの開催について

指導企画担当課長

学校支援担当課長

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和 8 年 1 月 22 日

令和 8 年第 1 回教育委員会定例会日程

日程第 1 教育長の報告事項

日程第 2 部課長の報告事項

令和7年度 第24回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について

教育委員会定例会資料

令和8年1月22日

指導課

事業の目的

- ものを創る感性、主体的な態度、工夫・創造する能力の育成
- ものづくりの重要性や技能、技術が果たす役割の理解、地域産業の重要性や、ものづくりを支える勤労者を尊敬する態度、望ましい勤労観や職業観の育成
- 技術立国日本、ものづくりのまち大田の将来を支える人材の育成
- ものづくりへの興味・関心、社会・産業の理解の涵養による、地域への愛着の深化

実施団体等

- 主催 大田区教育委員会
- 主管 ものづくり教育・学習フォーラム準備会
- 共催 大田区、大田区産業振興協会、大田区立小学校長会、大田区立中学校長会、大田区教育研究会、大田区立小学校PTA連絡協議会、大田区立中学校PTA連合協議会
- 協力団体・企業等
おおた少年少女発明クラブ、東京都職業能力開発協会、おおた fab、東京都洋裁技能士会、東京都板金工業組合、大田工業連合会、大田区建築あっせん事業連絡協議会、東京蒲田ロータリークラブ、東京都立城南職業能力開発センター大田校、キャリアクリアリング、おおたコマプロジェクト 大森工場協会、(株)ジャンメ、六郷 BASE、大田区に昆虫の楽園を作る会、東邦大学医療センター大森病院蔵前工業会・くらりか、東京都立つばさ総合高等学校、東京都立六郷工科高等学校、東京実業高等学校(新規) 東京都立城南特別支援学校、東京都立矢口特別支援学校、東京都立品川特別支援学校

事業の沿革(経過)

- 平成12・13年度、14・15年度、16・17年度に文部省(文部科学省)「ものづくり学習振興支援事業推進地域」として指定
平成12年度よりものづくり学習振興協議会の設置・開催
- 平成14年度よりものづくり教育・学習フォーラムの実施
(過去数年の来場者数 第14回7,919名 第15回6,850名 第16回9,646名 第17回7,953名 第18回6,469名 第19回中止 第20回2,191名 第21回4,894名 第22回5,522名 第23回6,333名)
- 令和2年度 厚生労働省事業「地域発! いいもの」に選定

本年度の事業内容

日時：令和8年1月17日(土) 9:00~16:00

会場：大森スポーツセンター 対象：大田区内小中学生、保護者、区民

○作品展示 小学校30校、中学校全28校、特別支援学校3校

◎教科「おおたの未来づくり」等における学習成果のパネル展示と机上展示を実施



○大田区小学生科学展 小学校29校

◎東京都小学生科学展向けに出品された大田区立小学校の学校代表作品29点のパネルを展示

○舞台発表 小学校9校、中学校5校、高等学校2校、関係団体1団体

- ◎小学校：教科「おおたの未来づくり」等における学習成果の発表
- ◎中学校：企業と連携して取り組んだものづくり学習の成果及び職場体験における体験や見学の発表
- ◎東京都立六郷工科高等学校、東京実業高等学校、六郷BASE：ものづくり学習発表



○ものづくり競技会 木工部門：中学校7校12名、ソーイング部門：中学校7校8名

- ◎技術分野(木材部門)は「一枚板からの自由作品製作」家庭科分野(ソーイング部門)は、「1mの布からのバッグ製作」をテーマに午前・午後合わせて、4時間の製作を実施
- ◎講師が審査し、蒲田ロータリークラブ(最優秀)賞1名、優秀賞2名、技能賞2名、アイデア賞2名を授与



○ものづくり体験 12団体による16種類の体験

ミシンを使ったものづくり体験、アルミ缶クラフトづくり体験、3Dプリンタでネームプレートづくり、椅子づくり、パズルチャームづくり、機織り体験、LEDと光ファイバーでつくる夜空の星、ペンギンペン立ての作成
おおたコマ組み立て、コマのパーツづくり、簀編みの壁掛け、貝殻アート、紙コプター、種の標本、回っていなくても倒れないコマづくり、電子工作体験



○おおたの未来づくり販売ブース 小学校4校

- ◎大森第五小学校×協力企業：ハタノ製作所 … ネジの動物「ネジマル」の販売
- ◎入新井第一小学校×協力企業：よね屋 … 和菓子の販売
- ◎入新井第二小学校×協力企業：ドン・キホーテ大森店 … 「防災グッズ」の紹介
- ◎道塚小学校×協力企業：藍熊染業 … 「藍染ハンカチ」の販売



○オリジナルトートバッグ

- ◎雪谷小学校児童がデザインを担当
- ◎舞台発表及びものづくり競技会参加者への参加賞として提供



本年度の成果と課題

(延べ) 来場者数：6,187名(うち、体験コーナー参加幼児・児童・生徒：628名)

- 【成果】・保護者、教職員及び地域の方々が、教科「おおたの未来づくり」に関する学習内容について、興味・関心を高めることができ、教科「おおたの未来づくり」の普及・啓発に繋がった。
 - ・東京都立特別支援学校3校に展示発表で御協力をいただき、共生社会の実現という視点で、充実させることができた。
 - ・大田区産業振興協会をはじめ、大田工業連合会、大田区立小学校PTA連絡協議会、大田区立中学校PTA連合協議会等との連携を進め、円滑な運営ができた。
 - ・体験コーナーの運営や準備の会場設営等を外部に委託することで、より円滑に運営することができた。
 - ・東京蒲田ロータリークラブから「ものづくり競技会」の最優秀賞に副賞の提供をいただいた。木工部門は、3Dプリンタ、ソーイング部門は、ミシンを御提供いただいた。
 - ・雪谷小学校に依頼し、「舞台発表」及び「ものづくり競技会」の参加児童・生徒に、雪谷小学校の児童がデザインしたオリジナルトートバッグを配布することができた。
- 【課題】・舞台発表の会場変更により、落ち着いた環境で観覧することができたが、観覧者を当該学校の保護者のみと限定したため、発表の成果を多くの方に見てもらえるように工夫する必要がある。